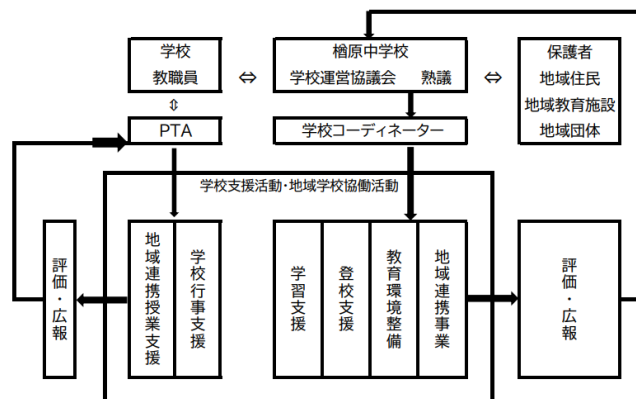


■活動の目的・概要

- 保護者と地域住民と教職員等、互いの意向を適切に把握する機会を積極的に設定し、情報共有を一層深め、学校支援体制を強化する。
- 学力向上について教職員と情報共有や協働を図り、各種検定（漢検・英検等）・補習教室の定着と活性化を促進させる。
- 地域の小学校・高等学校・大学と連携して教育活動を展開し義務教育9年間で「人間力」「社会性」を育む。



■活動の特徴・工夫したこと

○学校経営に関わる課題共有と活動支援

学校運営協議会委員と教職員が、学校の教育課題を積極的に意見交換し、改善策を模索した。その結果、特別に支援が必要な生徒に対して、学習支援サポートを実践し、教育環境を整えながら、学習活動を展開することができた。

○生徒の登校支援室「ポケットルーム」の試行（令和5年度より本格始動）

学校に登校できず、なかなか教室に入ることができない生徒を対象に、毎週金曜日（10：00～15：15）図書室にて学習支援や創作活動、話し合い活動等を実施した。学校に少しずつ慣れていく取り組みを通じて、様々な活動に参加できるように、これからもサポート体制を充実させていきたい。

○漢検英検監督サポート

学校運営協議会委員、保護者、地域のボランティアの方々が、学習意欲向上のための各種検定に取り組む生徒に対して、試験監督を通じて支援を行った。

○制服リサイクル

卒業生から譲っていただいた制服をサイズ別に管理し、様々な形で生徒たちに利用してもらえるよう、体制を構築した。

○図書室蔵書点検

保護者ボランティアを募り、急務であった図書室の蔵書点検作業と、書架の整理を行い、生徒たちが利用しやすい環境を整えた。

○小・中・高・大 地域社会との連携

八王子北高校生徒会と連携し、「服のチカラプロジェクト」に参加し、協働しながら、社会貢献について考えた。また工学院大学・創価大学と連携し、「生協」で職場体験を実施した。地域にある高等学校や大学で、中学生が将来を身近に感じながら、地域と共に学ぶことができる環境を提供していく。

学校運営協議会委員の中には、小中一貫連携校である、檜原・陶鎔小学校の委員を兼任している方が複数名おり、3校での情報共有がしやすい状況にある。今後は3校の学校運営協議会で連携した、地域学校協働活動も充実させていく。

